

- 問1 フビライ＝ハンが都を大都に移し、国号を「元」と定めた歴史的な背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）
1. 中国の優れた統治制度を取り入れつつ、内陸の交易路と海の道を統合して世界規模の帝国を支配するため。
 2. モンゴルの伝統的な遊牧生活を完全に捨て、純粋な中国式の農耕国家へと移行するため。
 3. キリスト教を国教として採用し、ヨーロッパ諸国との連携を強化するための拠点とするため。
 4. 日本の鎌倉幕府と軍事同盟を結び、東南アジアの諸島部を共同で支配する拠点とするため。
- 問2 鎌倉時代の歴史的出来事をまとめた資料において、後鳥羽上皇が隠岐へ流された直後に記述される、幕府による政治体制の変化として適切なものはどれか。（2020年 徳島県公立入試 類似）
1. 裁判の基準を明確にするため、御成敗式目を制定した
 2. 御家人の生活を救うため、徳政令を出して借金を帳消しにした
 3. 元軍の侵攻に備えるため、九州に鎮西探題を設置した
 4. 朝廷の監視や京都の警備を目的として、六波羅探題を設置した
- 問3 鎌倉時代に成立した新仏教のうち、一遍が開いた時宗が当時の社会に受け入れられ、急速に広まった理由として最も適切な説明を次の中から選んでください。（2023年 福井県公立入試 類似）
1. 念仏の札を配ったり、踊りを取り入れたりすることで、文字の読めない庶民層にも分かりやすく教えを説いたため。
 2. 幕府の保護を背景に、有力な武士階級のみを対象とした厳しい修行を重視したため。
 3. 加持祈祷によって現世利益を約束し、貴族や皇族の病氣平癒を主な目的としたため。
 4. 山に籠もって悟りを開くことを説き、俗世との関わりを断つことを強調したため。
- 問4 日本史における宗教や文化の変遷について、古いものから順に正しく並んでいる組み合わせを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. 鑑真が唐から来日し唐招提寺を建立した → 白河上皇が春日大社に参詣した → 運慶らが東大寺南大門の金剛力士像を制作した
 2. 運慶らが東大寺南大門の金剛力士像を制作した → 白河上皇が春日大社に参詣した → 鑑真が唐から来日し唐招提寺を建立した
 3. 鑑真が唐から来日し唐招提寺を建立した → 運慶らが東大寺南大門の金剛力士像を制作した → 白河上皇が春日大社に参詣した
 4. 白河上皇が春日大社に参詣した → 鑑真が唐から来日し唐招提寺を建立した → 運慶らが東大寺南大門の金剛力士像を制作した
- 問5 鎌倉時代の将軍と御家人の間には、土地を仲立ちとした主従関係が結ばれていました。御家人が軍役や京都の警護などを担う「奉公」に対し、将軍が御家人の先祖伝来の所領を認めたり、手柄に応じて新たな土地を与えたりしたことを何といいますか。（2018年 滋賀県公立入試 類似）
1. 封建
 2. 知行
 3. 寄進
 4. 御恩
- 問6 鎌倉時代、社会不安や元寇などの外患が続く中で、「南無妙法蓮華經」という題目を唱えることによって、人々だけでなく国全体も救われると説き、日蓮宗（法華宗）を開いた僧侶は誰ですか。（2023年 群馬県公立入試 類似）
1. 日蓮
 2. 親鸞
 3. 法然
 4. 道元
- 問7 1221年、鎌倉幕府の混乱に乗じて朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇が、幕府を倒すために兵を挙げた出来事を何といいますか。（2021年 愛媛県公立入試 類似）
1. 保元の乱
 2. 平治の乱
 3. 応仁の乱
 4. 承久の乱
- 問8 1221年に起こった承久の乱の後、鎌倉幕府が朝廷の動きを常に監視し、あわせて西日本の政務や裁判を行うために京都に設置した機関はどれですか。（2018年 滋賀県公立入試 類似）
1. 六波羅探題
 2. 評定衆
 3. 問注所
 4. 鎮西探題
- 問9 平氏が壇ノ浦の戦いで滅亡した後、源頼朝は関東を本拠地として武家政権の確立を進めました。頼朝が平氏討伐に協力した弟の義経を追放した際、義経をかくまったことを理由に軍を送り込み、平泉を拠点としていた勢力を滅ぼした出来事を何といいますか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
1. 奥州藤原氏の征伐
 2. 元寇への対応
 3. 島原の乱の鎮圧
 4. 承久の乱の鎮圧
- 問10 鎌倉幕府において、将軍と直接の主従関係を結んだ武士である御家人の間で行われた、土地の仲立ちによる双務的な関係を何といいますか。（2021年 福島県公立入試 類似）
1. 寄進地系荘園
 2. 版籍奉還
 3. 御恩と奉公
 4. 封建制度
- 問11 鎌倉時代において、将軍と「御恩と奉公」と呼ばれる主従関係を結んだ武士を何といいますか。（2021年 静岡県公立入試 類似）
1. 守護
 2. 足輕
 3. 地頭
 4. 御家人
- 問12 13世紀後半、大陸を支配した元の皇帝フビライ＝ハンは、日本に対して服属を求める使節を何度も送りました。当時の鎌倉幕府がこの要求に対してとった対応と、その結果として起こった出来事の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 幕府は元の要求を受け入れるふりをして時間を稼ぎ、その間に大陸へ逆侵攻を開始した。
 2. 当時の皇帝チンギス＝ハンの圧倒的な武力を恐れ、幕府は速やかに服属を認める決断をした。
 3. 幕府は大陸の宋と協力して元を倒すため、朝廷を通じて元へ宣戦布告を行った。
 4. 執権の北条時宗が要求を拒否したため、元が二度にわたって日本へ軍を派遣する事態となった。
- 問13 鎌倉時代に栄西が伝えた「臨済宗」や、道元が伝えた「曹洞宗」といった禅宗が、当時の武士たちの間で広く受け入れられた理由として最も適切な説明はどれですか。（2021年 山口県公立入試 類似）
1. 各地を巡りながら踊りを通じて仏を供養する形式が、領地を移動する武士の生活に合っていたから。
 2. 厳しい修行や座禅を通じて、自身の精神を鍛え上げる教えが、武士の気風に適していたから。
 3. 法華經の教えを信じることで、国家の安泰と個人の救済を同時に実現できると考えたから。
 4. 「南無阿彌陀仏」と唱えるだけで誰もが救われるという教えが、文字の読めない武士にとって容易だったから。
- 問14 承久の乱において、幕府軍が朝廷軍を破った後、幕府が朝廷の監視や京都の警備、および西国の武士を統制するために京都に新しく設置した役所はどれか。（2017年 千葉県公立入試 類似）
1. 六波羅探題
 2. 政所
 3. 問注所
 4. 鎮西探題

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国の優れた統治制度を取り入れつつ、内陸の交易路と海の道を統合して世界規模の帝国を支配するため。	フビライ＝ハンは、モンゴル人としてのアイデンティティを保ちながらも、中国の制度を巧みに利用して広大な領土を統治しようとしました。都を大都に置いたのは、草原の道やオアシスの道といった内陸の交易ルートと、南シナ海からインド洋に至る「海の道」を結びつける戦略的な意図がありました。これにより、元は東西の物資や文化が活発に行き来する国際的な帝国へと発展しました。
問2	答え 4 朝廷の監視や京都の警備を目的として、六波羅探題を設置した	承久の乱の戦後処理として、幕府は首謀者である後鳥羽上皇を隠岐に配流し、仲恭天皇を廃位するなど、朝廷に対して厳しい態度をとった。同時に、京都の警備と朝廷の監視、さらには西国の御家人たちを直接統制するために六波羅探題を設置し、幕府の支配権を西日本まで大きく広げることとなった。
問3	答え 1 念仏の札を配ったり、踊りを取り入れたりすることで、文字の読めない庶民層にも分かりやすく教えを説いたため。	鎌倉新仏教の多くは、それまでの難解な教義や厳しい修行を廃し、庶民でも実践できる簡単な方法を提示しました。特に一遍は、全国を巡りながら「踊念仏」という視覚的・身体的なパフォーマンスを伴う布教を行ったため、文字を解さない多くの民衆に熱狂的に受け入れられ、急速に全国へ広がりしました。
問4	答え 1 鑑真が唐から来日し唐招提寺を建立した → 白河上皇が春日大社に参詣した → 運慶らが東大寺南大門の金剛力士像を制作した	奈良時代の8世紀、唐から苦難の末に來日した鑑真が戒律を伝えるために唐招提寺を建立しました。平安時代後期の11世紀には、院政を始めた白河上皇が藤原氏ゆかりの春日大社へ参詣するなど、皇族による寺社への信仰が盛んになりました。その後、鎌倉時代の13世紀には、東大寺の復興事業において運慶らによって写実的で力強い金剛力士像が制作されました。これらはそれぞれ、奈良・平安・鎌倉の各時代を代表する文化的事象です。
問5	答え 4 御恩	鎌倉将軍と御家人の結びつきは、互いに利益を与え合う「御恩と奉公」の関係に基づいています。将軍側が行う、御家人の本領安堵（所領の保証）や新恩給与（新たな土地の付与）をまとめて御恩と呼びます。これに対し、御家人が命がけで戦うことや幕府の役職に就くことを奉公といひます。
問6	答え 1 日蓮	鎌倉新仏教の一つである日蓮宗を興した日蓮は、法華經の教えを絶対的なものと位置づけました。彼は当時の幕府に対し、正しい教えを信じなければ国に災いが起こると警告する『立正安国論』を献上したことで知られており、個人の安心立命だけでなく国家の安泰を強く願った点に特徴があります。
問7	答え 4 承久の乱	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺された後の混乱を機に、後鳥羽上皇が執権の北条義時を討つよう命じて起こした反乱です。幕府軍が勝利した結果、朝廷を監視するために六波羅探題が設置され、幕府の支配力が西日本にも強く及ぶようになりました。応仁の乱は室町時代に起こった戦いです。
問8	答え 1 六波羅探題	承久の乱で後鳥羽上皇の軍に勝利した幕府は、朝廷を厳しく監視すると同時に、それまで影響が弱かった西日本の武士を統制する必要に迫られました。そのため、京都の六波羅にあった平氏の旧跡に北条氏の一族などの有力な御家人を常駐させ、西日本の軍事・行政・司法を担わせました。
問9	答え 1 奥州藤原氏の征伐	源頼朝は、対立した弟の源義経をかくまった奥州藤原氏を滅ぼすため、1189年に大規模な軍勢を東北地方へ送り込みました。これにより、平泉を中心とした奥州藤原氏の勢力は滅亡し、頼朝は日本全域にわたる軍事的な支配権を固めることとなりました。
問10	答え 3 御恩と奉公	将軍が御家人の土地支配を認めたり、新たな土地を与えたりすることを「御恩」と呼びます。これに対し、御家人が軍役や京都・鎌倉の警備（番役）を果たすことを「奉公」と呼び、この双方向の結びつきが鎌倉幕府の組織を支える基盤となりました。
問11	答え 4 御家人	鎌倉幕府の基盤は、将軍と個々の武士が結ぶ強固な主従関係にありました。将軍に対して忠誠を誓い、この主従関係を結んだ武士のことを御家人と呼びます。これに対し、地頭や守護は幕府から与えられた「役職」の名称であり、足輕は室町時代以降に活躍した歩兵を指します。
問12	答え 4 執権の北条時宗が要求を拒否したため、元が二度にわたって日本へ軍を派遣する事態となった。	鎌倉幕府の第8代執権・北条時宗は、元の皇帝フビライ＝ハンによる服属要求を断固として拒否しました。これに対し、元は1274年（文永の役）と1281年（弘安の役）の二度にわたり、大規模な軍団を日本へ派遣しました。これを元寇と呼びます。選択肢にあるチンギス＝ハンはモンゴル帝国の創始者であり、日本への侵攻を指揮したのはその孫のフビライ＝ハンです。
問13	答え 2 厳しい修行や座禅を通じて、自分自身の精神を鍛え上げる教えが、武士の気風に適していたから。	禅宗は、座禅という厳しい自己規律を通じて悟りを目指す「自力」の教えであったため、命がけで戦場に赴き、精神の集中や自己の鍛錬を必要としていた武士の価値観と合致しました。そのため、鎌倉幕府の有力者からも厚く保護されました。選択肢にある「南無阿弥陀仏」は浄土系の宗派、「法華經による国家安泰」は日蓮宗、「踊り」は時宗（一遍）の特徴であり、禅宗の特色とは異なります。
問14	答え 1 六波羅探題	乱の終結後、幕府は二度と朝廷が反乱を起こさないよう監視を強める必要がありました。そのため、以前から京都の警備を行っていた京都守護を改組・強化し、六波羅探題を設置しました。これにより幕府の支配力は西日本まで及ぶようになりました。